

はーとtoはーと

Vol.15
2009.JUN

医療法人財団 池友会 新小文字病院

PRESTIGE OF SHIN-KOMONJI HOSPITAL
【第1回】医療法人財団 池友会 新小文字病院 脳神経センター長・脳神経外科部長 増田 勉インタビュー

困難な脳外科手術に立ち向かう。

新小文字病院～年報～／さがら内科医院の紹介
認定看護師紹介／高規格救急車導入！
かかりつけ医のすすめ



基本理念

「手には技術 頭には知識 患者様には愛を」

基本方針

- 高度医療 学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。
- 総合医療 患者様と医療情報を共有し、急性期治療から、早期リハビリ、在宅医療まで一貫した患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。
- 地域医療 地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します



【第1回】医療法人財団 池友会 新小文字病院 脳神経センター長・脳神経外科部長 増田 勉インタビュー

収録日：2009年4月27日／インタビューア：村中 耕平

しい脳神経外科の講座は何かすればすぐにものになる…つまり『若手でも何かができる』と思いました。それに脳というものは神秘的なものですしね。

また、当時CTスキャンが丁度日本に入ってきた時期でもあり、検査が非常にやりやすくなっていました。それまでの検査は非常に大変だったわけですが、CTスキャンのおかげで正確な診断ができるようになり、これからは『脳の時代が来る』と思っています。

——その時代が来ましたね。
そうですね。それに大学の中で色んな講座を見ていくと脳神経外科医は『勉強している』と思いました。夜遅く2時や3時でも教室の電気が点いています。そこで私は10年間ここで勉強しようと思いました。

ところが講座の中に入ってみると…単なる電気の付けっ放しだったんです(笑)
——そんな先生にとつての師匠とは？

大学を卒業して10年目までは徳島大学、10年を過ぎてから現

困難な脳外科手術に立ち向かう。

増田勉(ますだつとむ)。愛媛県愛南町(旧 南宇和郡城辺町)出身。高知県境の土佐の気風の中で育つ。坂本龍馬や中浜万次郎が大好きである。より高度な技術を求めて、昭和61年に小倉の小文字病院(2008年門司区移転 現 新小文字病院)へ転勤。以来、北九州にきて早23年…増田は数えきれない程の患者を治療してきた。時には朝から晩まで、さらには次の日の朝まで昼夜を問わず仕事を行っている。『神の手 福島孝徳』に師事して20年…困難な手術に立ち向かう。彼の情熱の根源は一体どこにあるのか？ 飽くなき探求心を秘める増田の姿を追った…。

——門司区に病院が移転して1年が経ちましたが門司区の影響を含めてお聞かせ下さい。

門司区に移転しても門司区だけの患者さんが来院しているわけではありません。確かに門司区の患者さんは増えていきます。疾患としては全てが脳神経外科というわけではないですが、『頭が心配』という方が多いです。今まで『どうしようかな？』と悩んでいた方たちが来院しているのは間違いないと思います。しかし、病院の機能として、まずはかかりつけ医の先生に相談して頂いて、問題があれば当院に紹介して頂きたいですね。今では、九州一円、山口や広島の方からも脳腫瘍や脳動脈瘤の患者さんの相談が相次いでいますし、待ち時間も増えてしまいますからね。

——先生は数ある診療科の中から、なぜ脳神経外科を選んだのですか？

徳島大学卒業時に脳神経外科の講座ができて3年目でした。私は徳島大学脳神経外科の3期生になります。外科や内科は歴史が古く、そういう所に入ってもやり難いと思いました。けれども、新

件数に関しては福島先生には到底及びません。そのような先生と一緒に手術ができることは本当に幸せです。

——先生が最も恐ろしいと思う脳疾患や最も難しい手術はありますか？

脳疾患には恐ろしい病気がたくさんあります。それに伴い、手術にも落とし穴がたくさんあります。手術中もドキドキ、ハラハラするものです。どれも易しくてどれも難しいということもなく全てにおいて経験がものを言います。また手術が上手になるためには手術件数をこなすことも大事です。私もまだまだ福島先生の手術件数には及びませんが、患者さんが良くなることを経験することです。さらに成長できます。

手術に関しては合併症が怖いんです。予想しないことが起こりますから。手術を終えて患者さんを診て、症状が治まっているのか？何も起こっていないか？心配です。いくらい手術をしても術後の状態が悪くては意味がありません。患者さんのADLを良くすることが第一です。患者さんを良

——先生の考える新小文字病院の魅力とはなんですか？

スポーツ選手や俳優さんと同じです。応援してくれる人がいることです。たくさんの方に応援して頂けることが魅力です。患者さんが良くなつて『先生、また何かあったらお願いしますね。』と言ってくれることが私たちの一番の力です。これがなければ仕事になりませんよ。これがあるから福島先生も手術をされると思います。

——最後に今後の展望を簡単に聞かせ下さい。

やはり門司区の病院ですので、門司区の皆様の健康を守ってあげたいです。
特に頭の疾患に関しては門司区内で解決できるようにしたいです。

——本日はどうもありがとうございました。

新小文字病院 年報

新小文字病院は開院2年目に突入しました。門司区に移転して1年、患者様の流れがどのように変化したのか？
旧小文字病院時代から変化の流れをわかりやすいようにグラフにしました。当院の地域貢献度を皆様のご目でご確認ください。

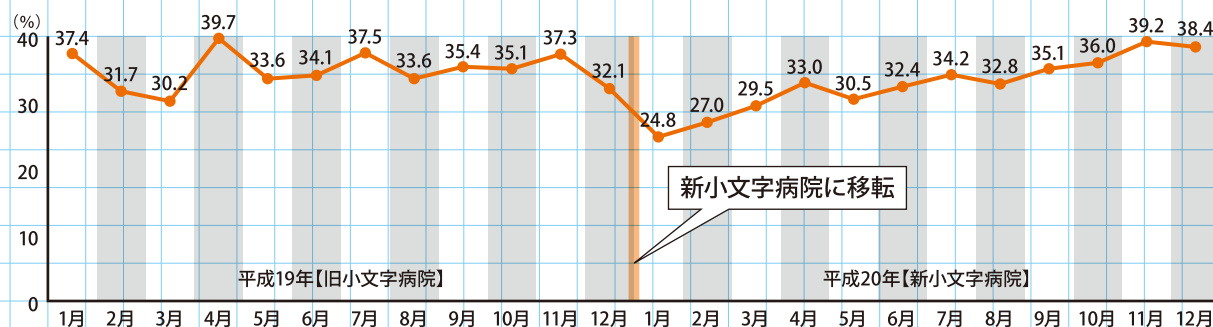
救急搬入数の推移

救急搬入件数は増加傾向にあります。
病院移転後も小倉北区や他地域からの救急搬入も継続的に続いています。
当院は24時間365日救急医療を提供し、今後も地域医療に貢献していきたいと思っております。



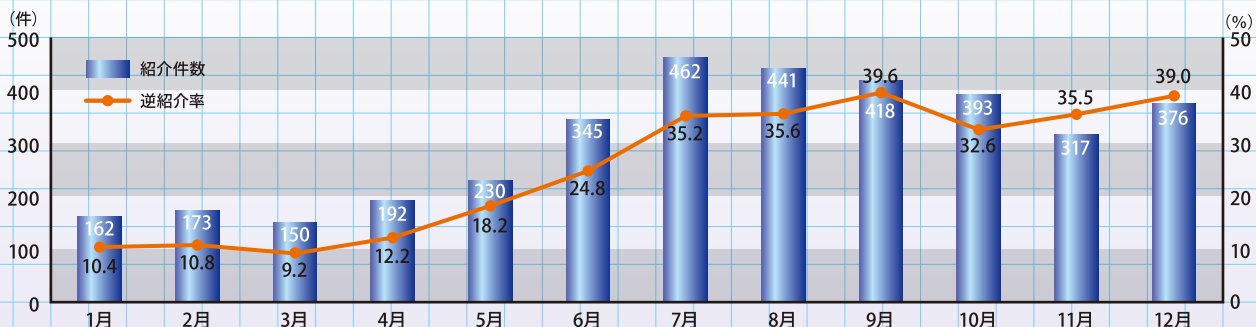
紹介率の推移

新小文字病院移転に伴い新患者数が増加したため一時紹介率が低下しました。
現在は、旧小文字病院時代と変わらず、地域の先生にご紹介頂いています。



逆紹介率の推移

当院では、新小文字病院移転を機に逆紹介への取り組みに力を入れています。
まだまだ、件数も少なく地域の先生にご迷惑をおかけしていますが
今後、最も力を入れていなければならない項目のひとつです。



特集



さがら内科クリニック

2009年3月に、旧小文字病院跡に開院した「さがら内科クリニック」。
今回は相良昌秀院長にお話しをうかがいました。

Q01 開院のきっかけは？

新小文字病院退職後、縁あって今回旧小文字病院での開業をいたしました。
やはり地元である小倉の地での開業が夢でもあり、また地元への今までの
恩返しの気持ちで地域医療が出来ればと思い、今回の開業となりました。



Q02 医療についての考えをお聞かせください。

私の座右の銘(?)に『医は、仁心仁術』、医は仁術という言葉のもじりです。
要は、医というものは心を持って術をなす、という意味合いで私は捉えています。

今回の開業に際し、科を問わず『患者様の安心する医療』、『患者様の納得
する医療』、そして『患者様から信頼される医療』、安心(safety)納得
(satisfaction)信頼(confidence)を目指して頑張りたいと考えます。



Q03 今後の目標は？

もちろん、一開業医だけでは何も出来ません。
病診連携、診診連携を通じ、患者様により的確な医療の『水先案内人』的
医療を目指します。



Q04 新小文字病院に対して一言。

私自身お世話になった病院でもありますし、それなりに思い入れもあります。
今後も私の医療の中心となる病院ですので、今後の多大なご協力を
を宜しくお願ひしたいと考えます。



さがら内科クリニック

北九州市小倉北区大倉1-7-25
TEL 093-512-5068

□診療時間 月・火・水・金 9:00~13:00/15:00~18:00
木・土 9:00~13:00/午後休診
□休診日 日・祝日



院長 相良 昌秀

認定看護師紹介



認定看護師とは

日本看護協会が認定している資格認定です。特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて、水準の高い看護実践ができ、看護現場における看護ケアの広がりと向上を図ります。



社団法人日本看護協会認定
皮膚・排泄ケア認定看護師

大谷 純子

専門性を活かし、患者様を支えたい。



はじめまして、2008年度より皮膚・排泄ケア認定看護師として活動を始めました大谷純子です。

ここでは、認定看護師やWOCナースの活動内容についてご紹介致します。医療が高度化・細分化していく現代において、看護師にも専門性が求められるようになり、より専門的で水準の高い知識や技術を持った看護のスペシャリストが必要とされる時代になりました。このような時代要請を受け、日本看護協会が1996年にスタートしたのが、資格認定制度つまり認定看護師制度です。特に特定看護師は現場での実践家としての役割が求められています。私が認定を受けた皮膚・排泄ケアのWOCの分野は、ストーマーを増設された患者さまに対して、適切な装具を選択するためのアドバイスや、皮膚障害などのケア予防を行います。また、褥瘡及び失禁のケアも予防の大切な活動の一つです。活動内容は多岐に渡り、患者様のその後のADL・QOLに関わるための責任は重大ですが、それ以上にとても遣り甲斐があり喜びが多いものです。

現在、当院で私が行っている具体的な活動として、週1回の褥瘡回診を行い、医師・看護師・栄養士・理学療法士・薬剤師などスタッフ全員で治療に取り組んだり、外来で褥瘡やストーマー患者様の術後フォローを行ったり、定期的に勉強会を開いて病院スタッフや一般患者様により関心や認識をもっていただけるように努めています。

そのような私たちの活動を通して多くの方に生きる喜びを感じて頂いたり、後に続く後輩の皆様に見習いとしての誇りを感じて頂ければ幸いです。

高規格救急車導入!

新小文字病院に新型の病院救急車が配備されました!

救急医療の高度化、多様化に対応する資器材を積載し、大型散光式警光灯を備えることで、迅速な搬送と的確な救急業務を行うことができ救急業務がより充実したものになります。車内は広く、静かでどんな重症の患者さんの搬送にも対応することが出来るものと期待されています。



■ドクターカーについて

救急医療に対する関心の高まりから、病院外における救急救命士の医療行為の質を保證するというメディカルコントロールの充実が叫ばれています。当センターのドクターカーシステムは、医師が現場に出動して傷病者を治療するとともに救急隊の指導も行うという、当地域のメディカルコントロールの中では最も重要な要素のひとつであり、欠く事のできないものとなっています。



まず『かかりつけ医』を 受診されることをお勧めいたします。



当院では『手には技術・頭には知識・患者様には愛を』と病院理念を掲げ診療を行っています。専門的な検査や治療を要する患者様に対し、整備した医療機能を十分に活かしていきたいと考えております。

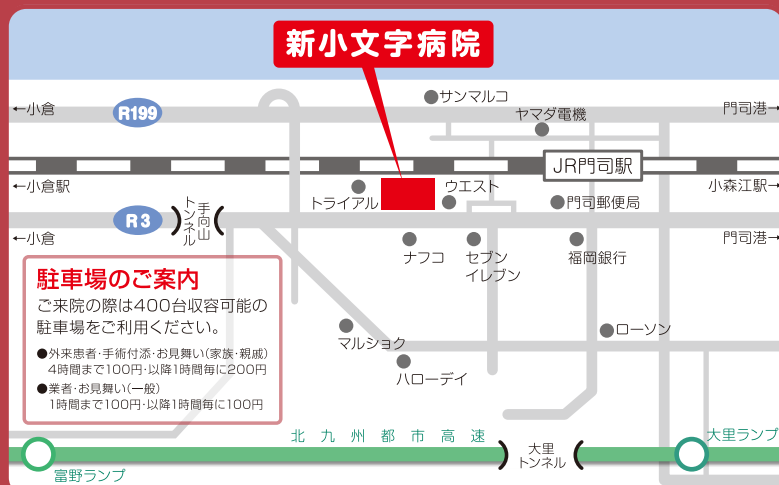
良い『かかりつけ医』をもつことは、健康に対する『安心』を得ることができます。そして必要に応じてご紹介いただくことにより、当院の高度医療機能を提供することができます。また、当院の医師はこれまでの病状や経過・

お薬の内容などが把握できる方が正確に診療させていただくことができるのです。

『かかりつけの先生』をお持ちいただき、その先生の紹介で当院を受診することが、これからの医療の上手な利用方法ではないかと思えます。

新小文字病院は、地域の病院・医院と連携して地域医療の充実を目指しています。

●新小文字病院 周辺マップ



診療科目のご案内

内科
循環器内科
消化器内科
呼吸器内科
外科
整形外科
リウマチ科
形成外科
麻酔科
泌尿器科
皮膚科
放射線科
脳神経外科
脊髄脊椎外科
リハビリテーション科
救急科

治療センター

ER・外傷センター
脊髄脊椎治療センター
脳神経センター
ハートセンター

外来診療時間

午前 / 9:00~11:30
午後 / 14:00~17:00
日曜・祝日は休診

**24時間・365日
救急医療を
提供します!**



医療法人財団
池友会

新小文字病院

〒800-0057 北九州市門司区大里新町2-5 / TEL093-391-1001 / FAX093-391-7001

http://www.shinkomonji-hp.jp e-mail: info@shinkomonji-hp.jp

